

REGAC

リーガック



VOL.02

2013.2

公益社団法人 広島県理学療法士会 広報誌

Rehabilitation, Goal for Advanced Capability

『診療後、車いすを調整する理学療法士』



Contents

- 理学療法士の生涯学習
- 新人教育プログラムについて
- 地域で活躍する理学療法士
- 理学療法士と共に『脳卒中編』

理学療法士の生涯学習

理学療法士は病気が、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて治療を行う者で、国家資格となります。国家資格を取得するには、理学療法士養成校を卒業し、国家試験に合格する必要があります。

国家資格を取得後も、変化する社会のニーズを捉え、最新の知識や技術を習得しつつ、多くの

対象者に良質なサービスを提供するため、研鑽を続ける必要があります。また、理学療法士の学的発展に努めることによって国民の健康に寄与する職業です。

日本理学療法士協会における生涯学習は新人教育プログラムと生涯学習基礎プログラムおよび認定・専門理学療法士制度から構成されています(図1)。広島県理学療法士会では日本理学療法士協会の生涯学習に沿って、新人教育プログラム対象者への研修会を開催し、各種専門研修会、広島県理学療法士学会を開催(図2)、学術誌の発行も行い、職能団体として約2000名の会員の生涯学習を支援しています。

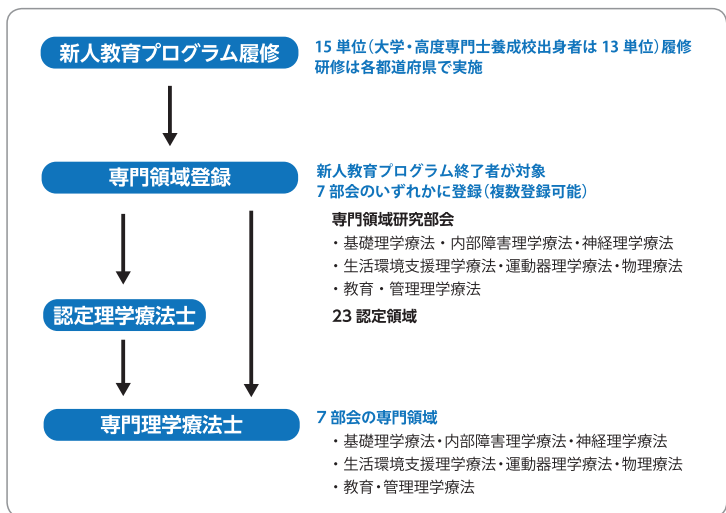


図1 日本理学療法士協会の生涯学習の流れ

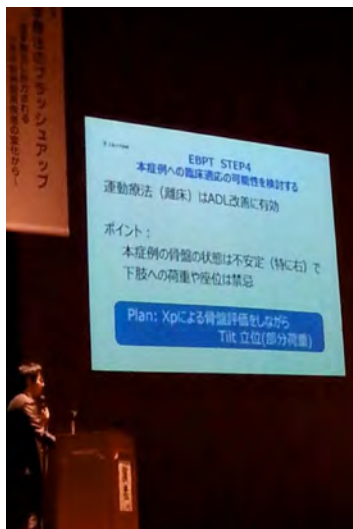


図2 第17回広島県理学療法士学会

新人教育プログラムについて

理学療法士は、運動療法や物理的手段を駆使して、赤ちゃんから老後までの、人生のあらゆる場面で、病気や怪我の回復を促し生きがいやその人らしさをサポートする職業です。つまり理学療法士は、専門的な知識だけではなく、幅広い知識と同時に、深い人間性をも求められます。そのため、国家資格を取得した後も、日々研鑽を積んでいく必要があります。日本理学療法士協会では、生涯学習の一環として、主に新人を対象に「新人教育プログラム」というシステムを構築しています。

内容は、専門分野・基礎分野があり「人間関係及び接遇」「神経系の理学療法」「社会の中の理学療法」「研究方法論」などを履修していきます。広島県理学療法士会では年2回以上、新人を対象とした研修会を開催し、広島県下の理学療法士延べ約1200人もの会員が参加しています。

新人教育プログラムを修了した後は、次のステップとして認定理学療法士・専門理学療法士の道が開かれています。



認定理学療法士として認定されて

IGL 訪問看護ステーション
菅原 道俊

日本理学療法士協会には、現在、7つの専門領域研究部会があり、その中に臨床現場での実践を志向する合計23領域の認定理学療法士があります。

認定理学療法士になるには、新人教育プログラムを終了後、専門領域研究部会に登録、2年を最短研修期間とし(通算研修期間5年)、認定理学療法士の受験資格に必要な履修ポイントを取得するとともに、事例・症例報告とあわせて受験申請を行い、申請書審査と認定試験に合格する事で、認定理学療法士として認定されます。

私は、内部障害理学療法研究部会の呼吸の認定理学療法士を受験し合格しました。在宅では様々な病気を持つ方が利用されており、最近では重症化した方も多くなってきています。それに伴い呼吸に関する理学療法アプローチはとても重要な部分を占めており、人工呼吸器の取り扱いや、痰の吸引など専門的な知識と実践力が次々と求められます。認定理学療法士に認定されて自己満足で終わるのではなく、認定されたからこそ、いつでも最高の理学療法が提供できるよう、常に自己研鑽を積み重ねていかねばならないと思っています。

学会発表を経験して

社会医療法人里仁会興生総合病院
島田 雅史

私が初めて学会に参加したのは大学生の頃でした。その頃は学会に対して、内容がとても難しく、加えて見知らぬ大勢の人たちの前で発表することは私にはとても無理だという印象を持っていたのを覚えています。

そんな私も理学療法士として働き出して早4年が経ち、学会での発表も何度か経験しました。もともと多くの人の前でしゃべることがそれ程得意ではなく、4度目の発表となった第16回広島県理学療法士学会でも発表前はとても緊張し、話し終えた後も、しっかり内容を伝えられただろうか、厳しい指摘を受けるのではと不安に感じていました。しかしながら実際の質疑応答では、参加された多くの理学療法士から建設的なご意見やアドバイスをいただき、わずか10分弱の時間が自身にとってとても有意義なものになったと実感しました。

最後に自身の抱負となりますが、まだまだ発表することに慣れないものの、自身のステップアップのため、さらには自分の行っている臨床や研究がさらなる理学療法の発展に寄与できればと考え、これからも学会発表を継続していきたいと思っています。



訪問看護ステーションみなみ
坂口 暁洋氏

地域で

活躍する

理学療法士



広島県地域包括ケア推進センター
芳谷 伸二氏

地域リハビリテーションとは？

地域リハビリテーションとは、『障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生涯安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。』（日本リハビリテーション病院・施設協会、1991）と定義つけられています。医療的な病期を示す生活期リハビリテーションを含め、保健、福祉およびボランティアなど、多くの人々が関わっています。現在広島県理学療法士の約1割に当たる200人強が訪問看護ステーションや介護保険事業所に勤め、地域リハビリテーションを支えています。

今年の6月、広島県に地域包括ケア推進センターが開設されました。都道府県レベルでの設置は全国初となります。地域包括ケア推進センターの役割は、各自治体の地域包括支援の充実を図り、その指導的役割を担うことです。

今回は、地域包括ケア推進センターで次長を務める理学療法士の芳谷伸二さんと、訪問リハビリテーションの現場で奮闘されている坂口暁洋さんに、地域リハビリテーションの現状と課題について、お話を伺いました。

地域リハビリテーションは、病院で行われているリハビリテーションと何が違うのでしょうか？

●坂口 まず一番大きく違うことは、対象者にかかわる

今後の課題についてお聞かせ下さい。

●坂口 地域には、それぞれの地域特性があるとは思いますが、基本となるようなモデルを広島県の理学療法士会で構築できればと思います。また、多職種の現状を知らないと自分たちの課題もみえてこないで、ヘルパーさんや看護師さん、ケアマネジャーさんなどのような仕事をしているのか知ることが大切のように思います。現場でも、また、広島県理学療法士会としても多職種を知る場がもっと必要だと思っています。多職種と上手く協力して連携できれば、利用者さんの大きな利益になると思います。

●芳谷 確かに、多職種としっかりとコミュニケーションをとることが大切ですね。一方通行ではないオープンな関係を築くことができれば、創造的なカンファレンスができるのではないのでしょうか。

この広報誌は多くの理学療法士も目にするのではないかと思います。特に、地域リハビリテーションに携わる理学療法士に何かメッセージをお願いします。

●坂口 地域で理学療法を行ううえで、何が足りないかという議論になることが多いですが、僕は新人でも十分にやっているとと思っています。ただ、多くのことを求められる昨今では、理学療法士が持っている能力を発揮できていないように思います。まずは、自分ができることから勝負する、それで壁にぶちあたったら、相談したり、他の人に頼ったりすればいいのではないかと思います。

●芳谷 在宅に関わっている理学療法士は悩んでいるん

期間の長さです。病院では、入院期間はある程度決まっていますが、地域ではエンドレスです。良くなる場面もありますが、悪くなる場合もあり、障害と付き合っていくという姿勢が大きく違うのではないかと思います。地域では、色々なことを求められるので、理学療法士の果たすべき役割は多岐に渡りますが、その中で優先的に何をすべきか、しっかりと見極める必要があるのではないかと思います。また、最近は病院の入院期間が短くなっている、地域でも積極的に機能回復を促すような理学療法が求められる部分が増えています。ですので、機能回復を求められる部分が半分、生活に密着した部分が半分、といった感じでしょうか。

地域リハビリテーションには多くの職種が携わることになりましたが、その中で理学療法士には何が求められるのでしょうか？

●芳谷 障害に対する可能性を切り開くこと、これは理学療法士にしかできないことだと思います。「麻痺が元通りに治ったらいいな」「手が握れたらいいな」ということもありますが、「残された機能でこんなこともできるんだ」と気付いてもらうこと、自信を取り戻しながら、「なんとかやっていける」と実感してもらうことが大事だと思います。自分の力で前向きに自信を取り戻していく人もいらっしゃると思いますが、理学療法士や他の職種の後押しが加わって、自信を取り戻し、地域でいきいきと生活できるようになる人もいらっしゃいます。理学療法を通して、「生活していける自信のスイッチを入れること」これが大切だと思います。

だな、と思うことがあります。身体機能の向上だけを目標にすると、何もできないと感じることがあるかもしれませんが、利用者さんと目標を共有し、利用者さんの心のスイッチを入れることを目標にした理学療法を行ってみてはどうでしょうか？ また、地域リハビリテーションの目標である「住み慣れたところで、安全に、いきいきとした生活を送る」は、理学療法の本来の目標でもあります。このことは、地域リハビリテーションに関わっていない理学療法士にも意識して頂きたいですね。

最後に、地域リハビリテーションで理学療法をご利用されている方に一言お願いします。

●坂口 あの時、もっと頑張っておけばよかった、とあきらめきれない状況をつくらないよう、とことん追求してほしい。そのために理学療法が担える部分は必ずあると思いますので、活用してほしいと思います。

●芳谷 理学療法は、希望をつくる仕事です。「こういうふうになりたい」という思いを理学療法士にぶつけてほしい。私たち理学療法士はそれが実現できるように、いろいろな視点で考えていきます。あきらめないで期待してください。



インタビュー 甲田 宗嗣氏

理学療法士と共に

●●● 脳卒中編 ●●●

脳卒中を発症した方と、理学療法士がどのように関わるかを紹介します。

脳卒中を
発症!!

脳卒中とは？

脳の血管が破裂したり、つまる病気で、寝たきりの30%はこの病気によるものと言われています。手足がまひして動かなくなる、話づらくなる、痛みなどの感覚がわかりづらくなるなどの後遺症が残ることがあります。



① 急性期 発症から約1ヵ月間

病気の治療と並行して、病状の変化に気をつけながら、少しずつ理学療法を開始します。

- ①寝たきりによる筋力の低下、関節が固くなることを予防します。
- ②全身状態に合わせて、座る練習や立つ練習を開始します。



② 回復期 発症から2ヵ月以内に入院 最長 180 日

住み慣れた家に帰るため・・・
可能なかぎりの日常生活の自立を
目指して集中的に運動を行います。

- ①手足を動かす機能練習を行います。
- ②歩く、トイレに行く、服を着るなど動作の練習を行います。
- ③家に帰るための準備として、手すりの設置や段差の解消などの住宅改修や、福祉機器のレンタルなどを提案します。



③ 生活期 退院後

再発を予防し、身体機能の維持、向上を目指します。
住み慣れた地域で、いきいきと生活できるようにサポートします。

訪問リハビリテーション

自宅に伺い、動作確認や運動を行います。



- ①日常生活で困っている動作の確認、練習を行います。
- ②体が不自由になると外出することが難しくなります。外出する手段や方法を一緒に考え、練習することで、地域生活への参加を目指します。
- ③自宅で快適にすごせるように、住宅改修や福祉機器のアドバイスの提供、家族に介助方法のアドバイスをします。

通所リハビリテーション

施設に通って、リハビリテーションを行うことに加え、食事や入浴といった介護サービスやレクリエーションに参加することで、心身のリフレッシュを図ります。



- ①身体機能の維持・向上を目指し、その人にあった運動のプログラムを計画します。
- ②集団での体操や創作活動を通じて、さまざまな人とふれあうことで、外出意欲を向上させ、閉じこもりを防ぎます。

理学療法士は、発症後から
退院後の生活までしっかりと支えます。

広島県理学療法士会 ホームページのご案内

<http://hpta.or.jp/>

●理学療法士に なりたい方

理学療法士になるためには、国家資格を取得する必要があります。理学療法士の国家試験を受験するためには、養成校で3年以上学び、必要な知識と技術を身につける必要があります。養成校には大学、短期大学、専門学校(3年制・4年制)等があり、県内には4年制大学が3校、4年制専門学校が2校あります。

資格取得後、より専門的な知識を身に付ける場合、研究職をめざす場合などは大学院もあります。

●理学療法を 受けたい方

理学療法は医療行為に位置付けられており、医師の指示に基づいて行われます。理学療法の多くは、病院、クリニック、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどの介護保険関連施設で行われています。ホームページの「**理学療法士がいる施設**」には、広島県理学療法士会の会員所属施設を対象に、施設の概要、対象疾患などを掲載していますので、ご活用ください。

公益財団法人 広島県理学療法士会
TEL 082-568-5610 FAX 082-568-5614
〒732-0052 広島県広島市東区光町1丁目4-27 サンパインビル501号

お問合せ

一般の方へ 理学療法士会について 当会情報

こんにちは
広島県理学療法士会です。

NEWS

開催日	テーマ名
2013年2月15日-2013年2月15日	「地域包括ケアシステムについて」研修会のご案内 【会場】広島県地域包括医療推進機構 【年月】平成2013年2月4日 【定員】80名
2013年2月15日-2013年2月15日	第4回第三支部研修会(佐伯院研修会) 【会場】尾道市民病院 【年月】平成2013年2月7日
2013年3月01日-2013年3月01日	平成24年度第4回第三支部研修会 【会場】三井新十字病院 【年月】平成2013年2月18日 【定員】80名
2012年11月06日-2013年2月23日	平成25年度学術研究助成事業募集案内 【年月】平成2013年2月23日
2013年1月14日-2013年1月26日	西支部 症例検討会開催のお知らせ 【会場】総合病院 福生生協病院 6階会議室

02/01
広島県理学療法士会
会報誌 REGAC
03/02
学術研究助成・学術交流
事業 学術委員会

02/01
広島県理学療法士会
会報誌 REGAC
03/02
学術研究助成・学術交流
事業 学術委員会

ページトップ

広島県理学療法士会

検索

編集後記

広く県民の皆さまに理学療法士について知っていただき、有益な情報を提供できるようにと発行された広報誌ですが、昨年に引き続き、第2号を発行する運びとなりました。

今号では、理学療法士の生涯教育について取り上げさせていただきました。理学療法士は、1965年に国家資格として定められた比較的新しい職種で、平均年齢は30・9歳と若い会員の割合が多いのが現状です。より効果的な理学療法を提供するためには、サービスを提供する側である理学療法士個人の技術、知識、人間力を成長させることが必要であり、職能の面でも学術の面でも研鑽を重ねることが重要となります。

広島県理学療法士会では、日本理学療法士協会の指針をもとに生涯教育を組織化し、さまざまな研修会や学会を開催することで、間接的にはありますが、県民の皆さまの充実した生活に貢献したいと考えています。『住み慣れたところで、安全に、いきいきとした生活を送るために』、私たちは真摯に取り組んでいきたいと思っています。

(二)ニュース編集部長 砂堀仁志



公益財団法人 広島県理学療法士会

TEL 082-568-5610

FAX 082-568-5614

E-mail hpta-office@hpta.or.jp

〒732-0052 広島県広島市東区光町1丁目4-27-501

<http://hpta.or.jp/>

REGAC

2013年2月 VOL.2
(公社)広島県理学療法士会 広報誌
発行人 沖田 一彦